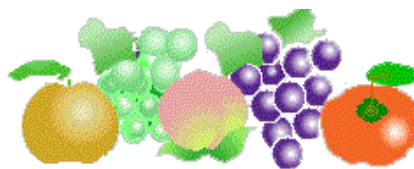


# 令和4年度 しらかわ果樹情報第15号



令和5年3月13日  
福島県県南農林事務所農業振興普及部

## 1 気象概況（表1）

平均気温は1月が1.1℃で平年より0.5℃高く、2月が1.8℃で平年より0.6℃高くなりました。降水量は1月が16.5mmで平年の38.4%、2月が22.0mmで平年の56.7%とかなり少なくなりました。日照時間は1月が145.7時間、2月が177.0時間となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
1	1.1	0.6	0.5	6.0	5.0	1.0	-3.0	-3.3	0.3	16.5	43.0	38.4	145.7	152.4	95.6
2	1.8	1.3	0.6	7.5	6.1	1.5	-3.1	-2.9	-0.2	22.0	38.8	56.7	177.0	154.8	114.3

## 2 向こう1か月の天候の見通し（3月11日から4月10日まで）

暖かい空気に覆われて、向こう1ヶ月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。期間のはじめは低気圧の影響を受けやすく、向こう1ヶ月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

## 3 発育予測（3月9日現在）＜今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます！＞

果樹研究所の予測データを白河地方に当てはめると、2週間予測では、果樹の発芽はモモ「あかつき」が3月20日頃で平年より6日早く、ナシ「幸水」が3月28日頃で平年より7日早く、リンゴ「ふじ」が3月24日頃で平年より8日早いと予測されます（表2）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、さらに生育が早まることも予想されるため注意が必要です。

表2 白河地方の発芽予測日

	発芽日		今後の気象経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	3月30日	3月26日	3月26日	3月23日	3月29日	3月20日
幸水	4月6日	4月4日	4月5日	4月1日	4月10日	3月28日
ふじ	3月31日	4月1日	3月31日	3月27日	4月5日	3月24日

注1) 発芽日の平年値：平成4年～令和3年。注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値。注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合がある。

また、以下の防霜対策の準備を早めに行うことも重要です。

- ①傾斜地では、冷気は園地の低い方へ流れるので、防風ネットを巻き上げておく。
- ②燃焼資材を準備する。
- ③防霜ファンの稼働を事前に確認しておく。
- ④散水スプリンクラーの稼働を事前に確認しておく。

## 4 栽培上の留意点

### (1) 管理作業の計画的な実施

- ・この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となる。
- ・発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意する。

### (2) モモの摘蕾 (図1)

- ・摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下する。摘らい作業は時間を要するので計画的に実施する。

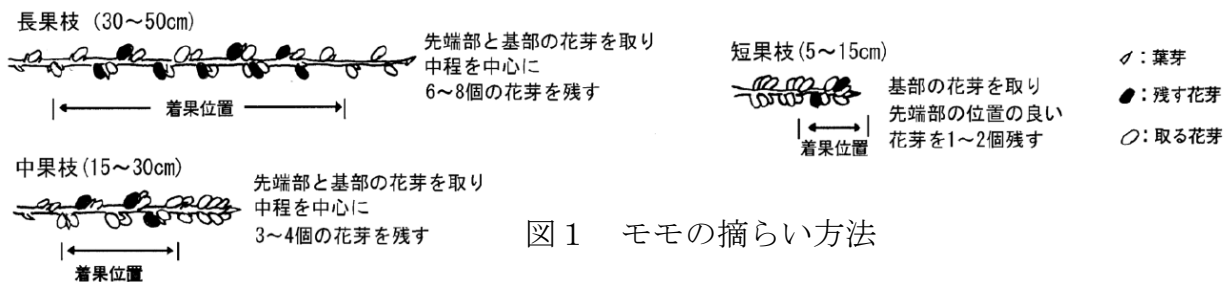


図1 モモの摘らい方法

## 5 病虫害防除上の留意点 (使用薬剤は防除暦を参照してください)

### (1) リンゴ

- ・近年、腐らん病の発生が多くなっている。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除する。
- ・輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取る。
- ・うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度を低下させる。
- ・ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底する。

### (2) モモ

- ・黒星病及びハダニ類に対して、防除暦に従い防除を実施する。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬害虫が多発した園地では防除が必要である。
- ・黒星病の枝病斑は伝染源にはならないが、枝病斑が見られる枝では芽基部感染の可能性があるため、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除する。
- ・黒斑病の越冬伝染源 (枝病斑、ボケ芽) は、せん定時に取り除く。
- ★3月中旬以降、落葉から孢子が飛散し、一次感染が始まる。落葉処理を行った園地でも①原型を留めた落葉がないか、②園地周辺部に落葉が溜まっていないか、確認する。

### (3) ナシ

- ・縮葉病に対しては、発芽前 (りん片がゆるむころまで) の防除を実施する。
- ・コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後に防除を実施する。
- ・ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底する。

### (4) ブドウ

- ・晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度を低下させる。
- ・晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底する。
- ・前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施する。

## 6 りんごの青実果（あおっこ）について（富山県園芸研究所果樹研究センターより）

昨年12月に開催されたせん定講習会時に、今年度は青実果の発生が多かったと情報提供がありました。青実果の発生要因と発生低減の対策についてまとめました。

### （1）青実果とは

右の写真のように、果皮は果点の盛り上がりがなく滑らかで、地色が抜けきらず、色の鮮やかさがありません。また、糖度が低く、果肉が硬く、酸味が少ない食味の劣る果実で、商品性は極めて低いです。



図2 「青実果」（左）と「正常果」（右）の外観  
（H22 富山県農林水産総合技術センター園芸  
研究所研究報告 より引用）

### （2）青実果の発生原因 4点

- ①結果枝が長いほど多くなる。
- ②生育期間の気温が高いと増加する。
- ③葉色が濃く新梢が伸びるほど多く発生する。
- ④果台・果台枝が長いほど多くなる（気温が高いと伸びる）。

↓

前年の気温の上昇によって樹勢が旺盛となった結果、長い結果枝の比率が高まるとともに、当年の高温により長い果台や果台枝の割合が増加して、青実果の発生が増加すると考えられます。



図3 着果部位の名称

### （3）青実果の発生軽減対策

#### ア 適切な着果管理

- ・短果枝への着果を徹底する。
- ・果台長は1 cm未満のものに着果させる。
- ・果台枝長は10 cm未満のものに着果させる。

#### イ 適正樹勢への誘導

- ・せん定の程度を軽くして樹勢を抑え、新梢の長さを抑える。
- ・窒素施肥量を減らして葉色を淡く維持する。  
→翌年に短果枝を多く確保できる。